

## 美術館ニュース 群馬の森

no. 203  
2026 1/1

群馬県立近代美術館、設備更新工事始まる 休館は約9か月、再開は2026年9月中旬を予定

**当**館は設備更新工事のため、2025年12月17日から長期休館に入りました。前号でご案内したとおり、この休館中に照明、空調、給排水・衛生の各設備、そして荷物用エレベーターの更新工事を実施することになっており、年明けから本格的に各工事が始まります。

工事完了は2026年8月末を予定しており、その後9月中旬からまずコレクション展示(常設展示)を再開し、その後群馬県展(美術・書道)、企画展示などを順次開催する予定です。来年度の展示計画については、次号でより詳しくお知らせします。

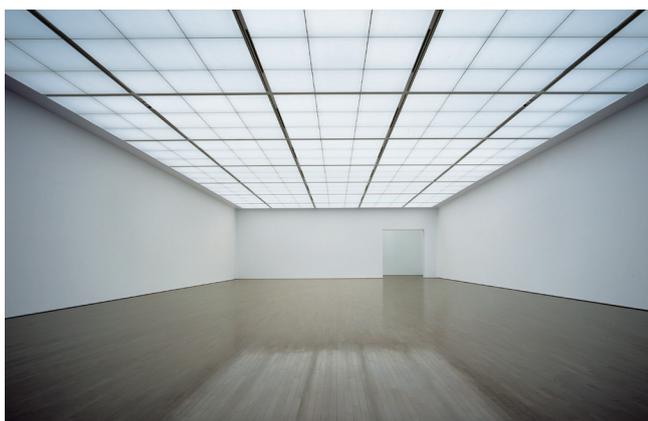
本紙では工事の概要や進捗状況を逐次ご報告していきます。今回は照明設備更新工事についてご説明します。

2025-26年

## 群馬県立近代美術館設備更新工事① 照明設備 LED化工事

当館では、2006年から08年にかけての大規模改修工事の際に本館展示室内の照明をすべてリニューアルしましたが、当時LED照明はまだ普及していなかったため、蛍光灯とハロゲンランプを使用していました。1998年に増築された現代美術棟も同様です。今回の工事では、現状の照明プランを維持しつつ、器具をLED照明に置き換えていく計画です。

展示室1を例にご説明します[写真1]。主に企画展示で使用する当館最大の展示室の天井には全面に蛍光灯が設置され、グリッド状に張られたガラス繊維の膜を通して空間全体にやわらかく均質な光が行き渡るようになっていきます。この蛍光灯を、ご家庭や事務室などでもよく使われるLEDライトバーに交換していくわけですが、LED照明はもともと直進性が高い(拡散しない)ことが特徴です。これまでと同等の照明効果が得られるよう、設計段階では器具の選定、個数や配置の検討が慎重に行われました。

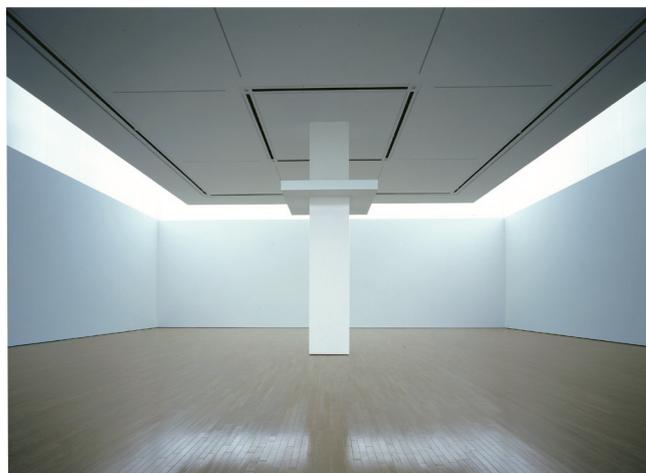


[写真1] 展示室1

現代美術棟の展示室3、5では、自然光を採り入れた特殊な照明システムを採用しています。乳白ガラスを通して展示室に入る自然光は、照度に応じて自動で開閉するブラインド(ルーバー)によって一定に制御されます。自然光だけで設定照度に達しない場合は、吊り天井内に設置された蛍光灯が順次点灯し、照度を確保しています。

残念ながら展示室5のルーバーは不具合が続き、近年は自然光の制御ができなくなっていました。そこで今回の改修では、展示室5については自然光の採光を断念し、LEDのみで照明を行う方式に変更することになりました。空間全体に光がまわり込む照明効果を損なわないよう、計画しています。

展示室3については、壁4面のハイサイドライト内に設置された電動ブラインドもあわせて更新し、自然光と人工光をミックスして快適な鑑賞環境を作り出す現状の自動調光システムを維持します[写真2]。



[写真2] 展示室3

そのほかの展示室についても、それぞれ特徴ある照明プランを維持して更新していきます。さらに講堂やアトリエ、シアター棟やレストラン棟、そして収蔵庫などのバックヤードも含め、館内外すべての照明器具がLED照明に更新される予定です。

LED照明の技術革新は目覚ましく、かつて既存の照明と比べた時に感じられた違和感もなくなり、対象をくっきり照らし出し、かつ繊細な色温度設定や照度調節が可能という優位性が発揮されるようになっていきます。LED化による展示空間の変化にご期待ください。

(撮影: 藤塚光政)

# こども＋おとな＋夏の美術館 レポート

夏休み期間中、募集制のワークショップや、自由に参加できるミニワークショップ、開館中いつでも参加できるワークシートなど、様々なプログラムを実施しました。幅広い世代の総数4,362人の方々にご参加いただきました。その様子を簡単にご報告します。

開催期間：2025年7月19日(土)～8月31日(日)

## ●ワークショップ「マネックスターをつくろう」【要申込／参加費 550円】

8月11日(月・祝) 10:30-12:30、14:00-16:00

講師：浅野暢晴(彫刻家)

会場：2階アトリエ

対象：幼児～一般(小学3年生以下は保護者同伴)

参加者数：50人



作家の指導のもと樹脂粘土を使って制作しました。初めは固い粘土ですが、よく練るとだんだん柔らかくなります。参加者は、思い思いの三本足の生き物「マネックスター」を作りました。道具を使って模様をつける工程では、熱中する姿が見られました。オープンで焼いて完成させた後は、出来上がったマネックスターを集まわせて撮影会を楽しみました。

## ●ワークショップ「キュビズムで描こう！ピカソの世界」【要申込／無料】

①こども向け7月26日(土) 10:30-12:30

②じっくり描きたい人向け8月16日(土) 10:30-15:30

講師：温井大介(アーティスト)

会場：2階アトリエ、2階展示室2

対象：①幼児～小学生(小学3年生以下は保護者同伴) ②小学4年生～一般

参加者数：54人



「こども向け」と「じっくり描きたい人向け」で開催しました。どちらの回も、アーティストと共にピカソ《ゲルニカ(タピスリ)》を鑑賞してから制作を行いました。こども向けでは、目や顔などのパーツを自由に組み合わせる“福笑い”の手法を用い、じっくり描きたい人向けでは、参加者が思い入れのある品物をさまざまな角度から観察して描き、その描いた要素を分解・再構成する手法でキュビズムの世界を楽しみました。

## ●ミニワークショップ「ポップアップカードをつくろう！」【申込不要／無料】

毎週日曜日(7月20日、27日、8月3日、10日、17日、24日、31日) 各日 10:00-16:00

会場：1階ホール

参加者数：899人

ブールデル《大きな馬》、デュフィ《ポール・ヴィヤール博士の家族》、ザッキン《破壊された都市》の輪郭がプリントされた3種類の用紙から好きなものを選び、自由に色を塗って飛び出すカードを作りました。参加者は思い思いの色を使い、個性あふれる楽しいポップアップカードが完成しました。



## ●ミニワークショップ「チラシでつくるアートな風鈴」【申込不要／無料】

毎週水曜日(7月23日、30日、8月6日、13日、20日、27日) 各日 10:00-16:00

会場：2階アトリエ

参加者数：694人

好きなデザインや色のチラシを選び、型紙を使って円や四角に切り取りました。どの部分を使うかによって、風鈴の印象が大きく変わります。過去の展覧会のチラシを再利用することで、SDGsにもつながる取り組みとなりました。



## ●ファミリータイムプラス「えのぐあそび」【申込不要／無料】

毎月第2・4木曜日(7月24日、8月14日、28日) 各日 9:30-12:00

会場：2階アトリエ

参加者数：175人

小さなお子様連れでも気兼ねなく鑑賞できる時間帯(ファミリータイム)にプラスして、簡単な絵の具遊びをしました。ろうそくで模様を描いて絵具を塗ると、あら不思議！描いた模様が浮き上がります。山口薫《花子誕生》をモチーフにしたさまざまな模様の“花子”が生まれました。



## ●鑑賞プログラム「おはなししよう！—午前《ゲルニカ(タピスリ)》/午後「群馬青年ビエンナーレ」【申込不要／要観覧料】

7月31日、8月21日(木曜日) 各日 10:30-11:30/14:00-15:00

会場：午前 2階展示室2/午後 1階展示室1

参加者数：102人

何度も見た作品だけど、お話ししながら鑑賞すると新たな発見があって面白い！—そんな感想が聞かれました。見る人によって視点や感じ方が異なるため、同じ作品でもまったく違った魅力を味わえる時間になりました。



## ●いつでも参加できるワークシート「ミュージアム・パスポート」【申込不要／要観覧料】

会場：2階展示室

参加者数：2,388人

ワークシートを持って、美術の世界を旅する企画でした。作品を探したり、作品から想像して音を聞いたり、作品の中に入ってみたい…。ワークシートを頼りに一生懸命鑑賞している姿がたくさん見られました。特に《ゲルニカ(タピスリ)》の作品の中に入り、「苦しんでいる人を助けて、みんなが仲良くなるようにしたい」と書いていた小学生の言葉には、胸を打たれました。



## 連続講座 「インクルーシブアート研究—美術館をだれもが楽しむために」 報告

当館は、一般社団法人、企業、他の公立美術館と連携し「ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト」に参画しています。障害のあるなしに関わらず、みなさんに美術館でアート鑑賞を楽しんでいただくにはどのような視点が大切か、今後どのような工夫が必要かなどを考えることは、このプロジェクトの軸のひとつになっています。9月から11月にかけて、当館講堂を会場に、関心のある方はどなたでもご参加いただける3回の連続講座を開催しました。

### ① 9月21日「違う視点を持ち寄ることで見えてくるもの」

講師：田中みゆき(キュレーター/アクセシビリティ研究/社会福祉士)

### ② 10月30日「美術館アクセシビリティ研修—いつでも、どこでも、だれでもアート鑑賞を楽しむには？」

講師：飯島邦敏(DET(障害平等研修)群馬代表)、久保田真由美(同スタッフ)、三輪途道(彫刻家、一般社団法人メノキ代表)

※群馬県障害者芸術文化活動支援センターこ・ふぁんと共催

### ③ 11月2日「作家、当事者、触図制作者、みんなで一緒につくる触図(滋賀県立美術館コレクションの触図制作について)」

講師：吉川紀子(滋賀県立美術館エデュケーター)、小川真美子(点字・触図工房BJ)



上から  
講座① 田中みゆきさん  
講座② 飯島邦敏さん(左端)、久保田真由美さん(左から2人目)  
講座③ 触図シートのお披露目

障害当事者や、障害者と深く交流して健常者との懸け橋となっている方々を講師に招き、美術館での作品鑑賞をめぐる問題点について、将来にわたって考え続けるヒントをいただきました。

インクルーシブ(すべての人が違いを認め、尊重し合って共生する社会や環境)、アクセシビリティ(だれでも必要とする情報や提供されている情報、機能を利用できること)、合理的配慮(障害のある人が障害のない人と平等に社会生活を送るための調整)、あるいはエイブリズム(健常者を前提に作られている社会の中で起きる意識的、無意識的な差別)など、共生を考える上で重要な用語についても丁寧に説明していただきました。今後、美術館における教育普及活動の視野を広げていきたいと思えます。

M u s e u m | N e w s

友の会だより

### Museum Shop

#### ◆ミュージアムショップより

\*休館中のカタログの通信販売について

美術館の休館に伴いショップもお休みとなりますが、当館所蔵品目録および過去に開催された展覧会のカタログについては通信販売(要送料)にてお買い求めいただけます。

取り扱いカタログは美術館ホームページより、「トップページ→利用案内→ミュージアムショップ→過去の展示カタログ→販売カタログリスト」にてご確認ください。なお、ファックスにてリストの送信も承ります。

ミュージアムショップカタログコーナー

お問い合わせ：群馬県立近代美術館 友の会 TEL 027-346-5560(館代表) / FAX 027-346-4064



**本** 作品は、鮮やかな赤い革製の婦人靴を真正面から捉えた写真作品である。プリントの表面にはアクリル板が圧着され、周囲の光を反射して内側から仄かに輝いているように見える。遠目ではファッションフォトのように見えるが、近づいてみると、先端が摩耗し皺のあるつま先や、履き口が膨らみ歪んでいる様子から、長いあいだ履き続けられた靴を撮ったものだとわかる。靴の持ち主は作者、石内都(1947-)の母である。

本作品を含む「mother's」シリーズは、石内の個人的な喪失から生まれた。2000年末に母が突然亡くなり、遺品を整理するために写真に撮り始めたのだった。自身のアトリエでもあった母の家で、化粧品などの小物はキッチンのシンクの上で、下着は窓辺に吊るし日光に透かして撮った。個々の写真は残されたモノたちのポートレートとなり、それらが集まって、生前、娘には理解しきれなかった母の人となりを感じさせるモンタージュとなった。そこには持ち物を大切に、日々を丁寧に生きたひとりの女性の姿が浮かび上がる。

それまでの石内作品は、モノクロフィルムで撮影し、自ら現像から水洗までを行って大判のプリントを制作するというものだった。「mother's」では口紅の赤色を表現したいという理由で初めてカラーフィルムを採用した。結果、石内のこだわりであったモノクロームと、新たな試みによる口紅、靴、着物の襦袢などの鮮烈な色彩で、ひとつのシリーズが構成されることになった。

モノクロームの表現から出発し、「mother's」でカラー写真の色彩を見出した石内は、その後「ひろしま」シリーズの制作を開始し、広島平和記念資料館の収蔵庫に眠っていた原爆被害者の遺品のなかから、当時少女たちが着ていた衣服の驚くほど豊かな色彩を世に届けることになる。



石内都《mother's #57》2004年、  
発色現像方式印画(chromogenic print)、85.0×128.0cm  
©Ishuchi Miyako, courtesy of The Third Gallery Aya.  
[展示写真撮影:木暮伸也]

## Topics

### 休館中も美術館が出張します！

休館期間：2025年12月17日～2026年9月中旬(予定)

**学** 校をはじめとした教育機関や公民館などでアート体験をしませんか？

群馬県立近代美術館では、休館中も皆さんのもとへアートを届ける「出張授業」を行います。アートカードを使った楽しい活動や、複製画を見ながらの鑑賞体験など、年齢や場所に合わせて内容をアレンジします。学校はもちろん、幼稚園・保育園・こども園・放課後児童クラブ・公民館等からのお申込みも大歓迎です。所要時間は内容により異なりますが、おおよそ1～2時間程度です。

派遣費用はかかりません。お気軽にお問い合わせください。



幼稚園へ出張したときの様子  
一緒にお話ししながら作品を鑑賞後、  
絵の具遊びをしました。絵の具の感  
触や色の変化を楽しみながら、思い  
思いに表現しました。



公民館へ出張したときの様子

アートカードゲームを行ったあと、複製画を使って対話  
による鑑賞を行いました。  
美術館に行ってみたくなったと大好評でした。

お問い合わせ：群馬県立近代美術館 教育普及係 TEL 027-346-5560 (館代表) / FAX 027-346-4064

